工事説明書

INAX

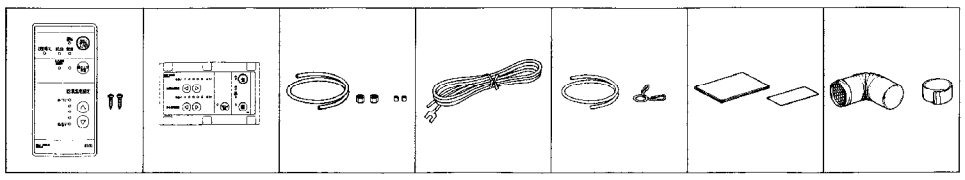
FFタイプ　屋内用密閉式強制給排気形
Fタイプ　屋内用半密閉式強制排気形
Mタイプ　屋外用開放形

石油給湯機付ふろがま TBSK-3301

1.開こん

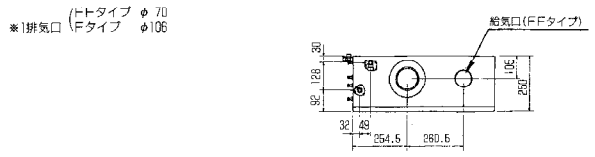
梱包には器具本体の他に下記の部品が同梱されていますので確認してください。

No.	品　　名	個　数
1	給湯リモコン（取付木ねじ(2)付）…FF・Fタイプは本体内蔵	1
2	バスリモコンセット	1
3	送油銅管（リング(2)、袋ナット(2)付）	1
4	アーメ用部材	1
5	吐水ホース（ホースバンド(1)付）	1
6	取扱説明書、保証書、工事説明書	各1
7	排気トップ、アルミテープ付…Fタイプのみ	1

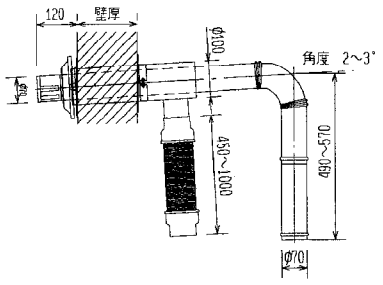


2.外形寸法図

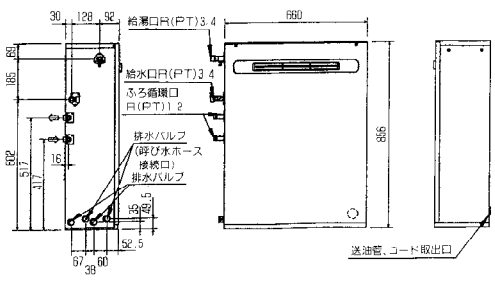
■FF・Fタイプ



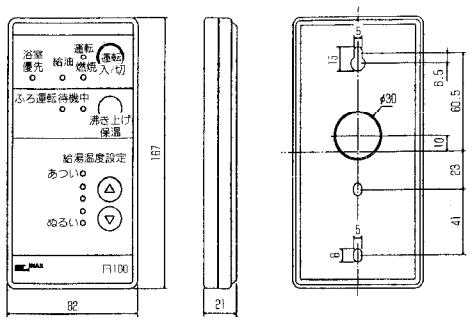
給排気筒セット(FFタイプのみ)



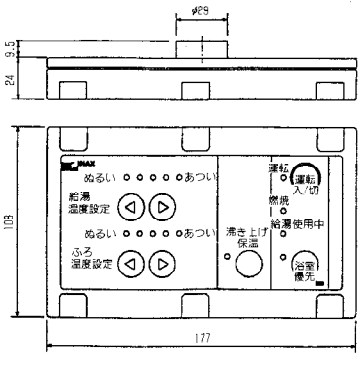
■Mタイプ



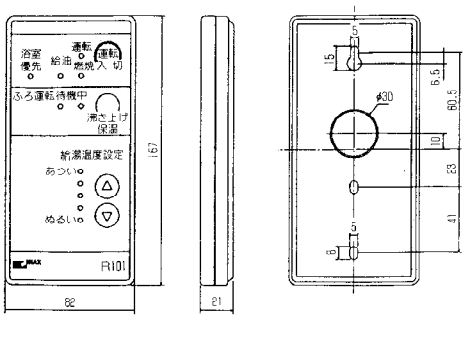
■給湯リモコンR100



■バスリモコンB100



■増設用給油リモコンR101(別売品)



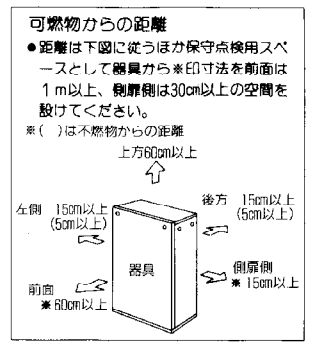
3.据付け

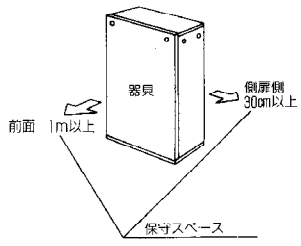
■場所の選定

器具を設置する場合は、各地区の火災予防条例にしたがってください。
据付ける場所は水道工事・電気工事などの付帯工事のできる場所にしてください。
また、火災防止上の所定の距離、隣家への防音上の配慮が必要です。
据付け場所を選定するときは、次の各項をよく吟味してから決めてください。

①雨水を避けることのできる場所かどうか。
②十分換気の行える場所かどうか。
③火災防止上の所定の距離が十分とれる場所かどうか。
④付近に燃えやすいものがない場所かどうか。
⑤機器の周囲は不燃材で仕上げてあるかどうか。
⑥床面が不燃材の安定した場所かどうか。
⑦油タンクを安全な場所に設置出来る場所かどうか。
⑧排水のしやすい場所かどうか。
⑨設置後の保守管理の行えるよう周囲に間隔をとれる場所かどうか。
⑩騒音防止について
※設置場所の選び方次第で騒音は非常に変わります。
騒音公害とならぬよう十分配慮し設置場所を選択してください。
特にMタイプは隣家の開口部（窓等）に十分配慮してください。

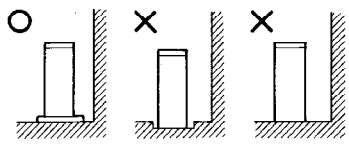
可燃物からの距離
●距離は下図に従うほか保守点検用スペースとして器具から※印寸法を前面は1m以上、側扉側は30cm以上の空間を設けてください。
※（　）は不燃物からの距離





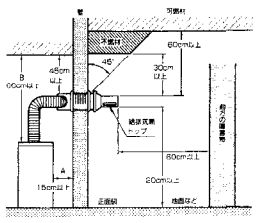
■据付けのまえに

防災上大切なこと
●床面には、必ず不燃材を使用した器具台を水平に設けてください。
器具の下部は絶対にセメント等で埋め込まないでください。
●屋内に器具を設置する際は床面に防水処理をしてください。
●屋外用開放形は絶対に室内に設置しないでください。
排ガスが室内に漏れ人変危険です。



■標準据付例

■FFタイプ

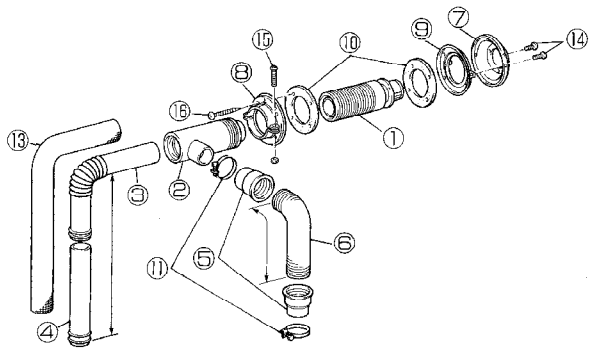


※1 排気筒の半径以上

■専用給排気筒(別梱包)TBH-33FFS取付方法

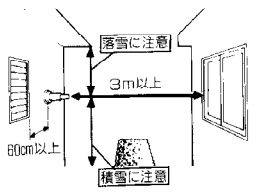
1部品一覧

番号	部　品　名	数量
①	給排気筒トップA	1
②	給排気筒トップB	1
③	伸縮エルボ	1
④	伸縮管	1
⑤	ゴムジョイント	2
⑥	給気ホース	1
⑦	化粧プレート	1
⑧	屋内フランジ	1
⑨	屋外フランジ	1
⑩	フランジパッキン	2
⑪	ホースバンド	2
⑫	アルミテープ	1
⑬	排気管カバー	1
⑭	化粧プレート取付けネジ	5
⑮	バンド締め付けネジ	2
⑯	フランジ固定ネジ	8
⑰	工事説明書	1



2給排気筒の取付位置

①外気に面する壁を選ぶ。
②給排気筒トップが、子供や動物（犬など）にいたずらされる恐れのある場所はさけること。また、人通りの激しいところはさけること。
③給排気筒先端は建物の開口部（窓等）と60cm以上離れていること。また、給排気筒トップ前方は排気ガスの流れ方向となるため、建物の開口部と3m以上離れていること。



●特に隣家の開口部は注意すること。思わぬトラブルの原因になります。

1．壁厚

給排気筒の取付可能な最大壁厚は15~29cmです。

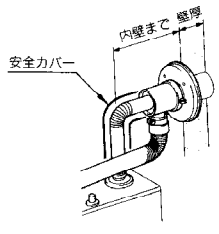
2．排気口から内壁までの寸法

排気口から給排気口取付内壁表面までの寸法は、下表の各寸法まで可能です。

（単位mm）

壁　厚	内壁まで
150	255~540
290	255~400

●給湯機の排気口芯と壁面の穴芯が1直線上に並ぶ場合は、給気ホースが排気管に当たらないように部品一覧⑬の安全カバーを排気管に取り付けてあることを確認ください。

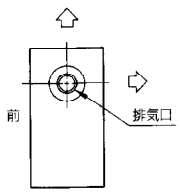


[注意]
上記取付位置条件で設置できない場合は、別売の延長部材を用意してください。総長は3m以下、曲りは3ヶ所としてください。

部品名		形　状	備　考	品　番
φ70排気延長部材	延長筒（一本）		伸縮長さ 350~560mm	FH-70-50
			伸縮長さ 590~1,000mm	FH-70-100
	90°エルボ			FH-70-L
	固定金具			FH-70-K

3. 給排気筒方向

給排気筒は下図2方向に取付可能です。

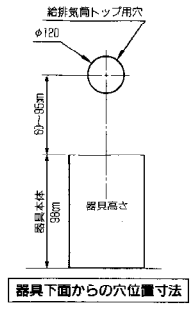


❸取付方法

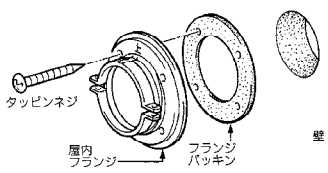
●屋内にての工事

①給排気筒トップの穴位置は入付工事説明書をお読みください。
穴あけの大きさは、直径120mmです。

②屋内フランジとフランジパッキンをかさね、壁穴に合わせ“上”印を上にして付属のタッピンねじ4本で壁に固定します。

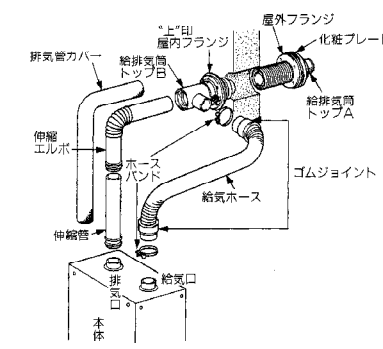


器具下面からの穴位置寸法



③機器排気口に伸縮管をツメが引っかかるまで差し込みます。
④給排気筒トップの排気口に伸縮エルボを差し込み排気管カバーを伸縮エルボに被せます。
⑤④で組み上げたものを伸縮管に差し込み、排気が漏れないよう伸縮管と伸縮エルボの接続部にアルミテープでシールします。
⑥排気管側全体に排気カバーを被せ、給排気筒トップが屋内フランジの後ろに来るように調節します。
⑦給気ホースの両端を延ばしてゴムジョイントをホースにねじ込みます。
⑧給排気筒トップの給気口にゴムジョイントを差し込んでホースバンドで固定します。
⑨機器給気口にゴムジョイントを差し込んでホースバンドで固定します。

【注意】
排気管と給気ホースとの間は5cm以上離してください。

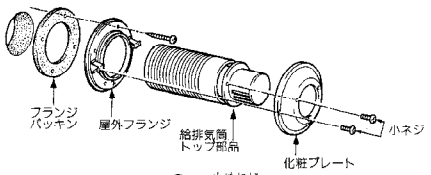


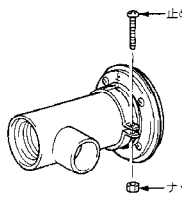
●屋外にての工事

⑩屋外フランジとフランジパッキンをかさね、壁穴に合わせ“下”印を下にして付属のタッピンねじ4本で固定します。
⑪給排気筒トップ部品に化粧プレートを付属の止めねじ3本で固定します。
⑫給排気筒トップ部品を屋外フランジの中に差し込み屋内の給排気筒トップに差し込み、ねじ込みます。
⑬化粧プレートと屋外フランジを付属の止めねじ2本で固定します。

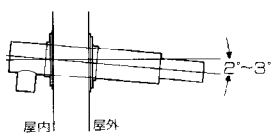
【注意】
このとき必ず排気口が下側にくるように取り付けてください。

⑭屋内フランジのバンド部で給排気筒トップを固定します。





【注意】
給排気筒トップは、必ず約3°の傾斜で下向きに取り付けてください。
又、φ70延長給排気管セットを併用された場合も、必ず給排気管が下向きに傾斜するように取り付けてください。

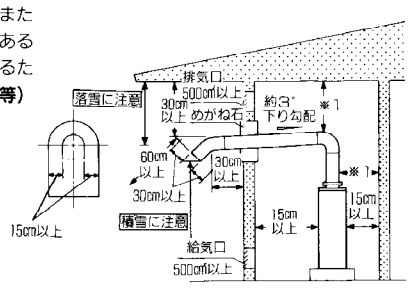


■Fタイプ

FH-106（別売煙突セットφ106）をご使用ください。

- 排気トップの周囲30cm以内、吹出方向60cm以内に可燃物がないこと。また右図範囲の投影面内に窓や換気口などの排気が屋内に流入する恐れのある開口部がないこと。また、排気トップ前方は排気ガスの流れ方向となるため、建物の開口部と3m以上離れていること。**特に隣家の開口部（窓等）に十分配慮してください。**

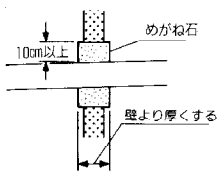
給・排気口面積　500cm²以上
スチールガラリの場合　1000cm²以上
木製ガラリの場合　1250cm²以上
パンチングパネルの場合　1700cm²以上

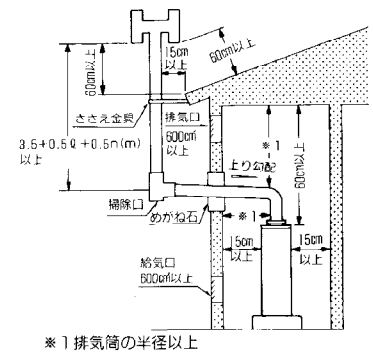


※1 排気筒の半径以上

●壁貫通部

火災予防上、安全性また器具の適正な燃焼の為、下記の注意点に従ってください。
①排気筒は内径φ106（3.5寸）のものを使用し、途中で細くしたり太くしたりしないでください。
②排気筒の接続部は附属のアルミテープで必ずシールをしてください。足りない場合は、市販のアルミテープをお使いください。
③先端には必ず附属の排気トップを取り付けてください。排気トップの先端は下方を向けてください。
④横引きは50分の1程度の下り勾配にしてください。
⑤排気筒の長さは2曲3mまでとしてください。（排気トップの曲りは除く）
ただし標準据付例の離隔距離の範囲内で、できるだけ短くしてください。
⑥所定寸法のめがね石を必ず使用してください。





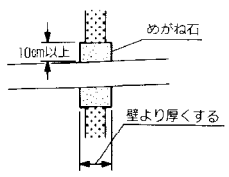
※1 排気筒の半径以上

排気筒の先端から水平距離1m以内に建物の軒がある場合は、その軒から60cm以上。
排気筒の先端から1m以内に建物の開口部（窓）がないこと。

給・排気口面積　600cm²以上
スチールガラリの場合　1200cm²以上
木製ガラリの場合　1500cm²以上
パンチングパネルの場合　2000cm²以上

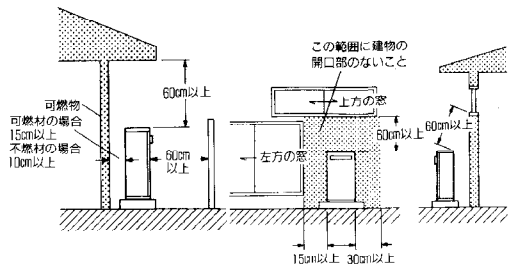
●壁貫通部

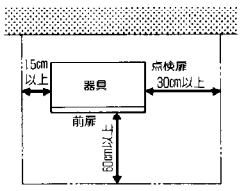
火災予防上、安全性また器具の適正な燃焼の為、下記の注意点に従ってください。
①排気筒は内径φ106（3.5寸）のものを使用し、途中で細くしたり太くしたりしないでください。
②排気筒の接続部は附属のアルミテープで必ずシールをしてください。足りない場合は、市販のアルミテープをお使いください。
③横引きは上り勾配にしてください。
④立上り寸法≧3.5+0.5ℓ+0.5n(m)、ℓ:横、引き長さ、n:曲り数
⑤排気筒の先端は風圧帯を避けて設置してください。
⑥所定寸法のめがね石を必ず使用してください。



■Mタイプ

器具前扉及び点検扉側は保守点検スペースとして必ず確保してください。また、排気口前方は排気ガスの流れ方向となるため、建物の開口部と3m以上離れていること。**特に隣家の開口部（窓等）に十分配慮してください。**
絶対に室内に設置しないでください。排ガスが室内に漏れ大変危険です。





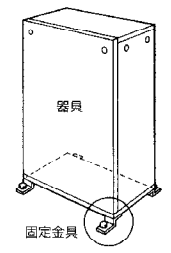
■据付方法

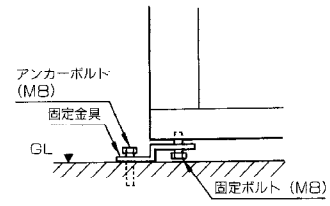
❶水平調節

器具側面についている水平器を見ながら、水平に据え付けてください。
傾いていると対震自動消火装置の誤作動の原因となります。

■ご注意（BL認定品の据付け方法）

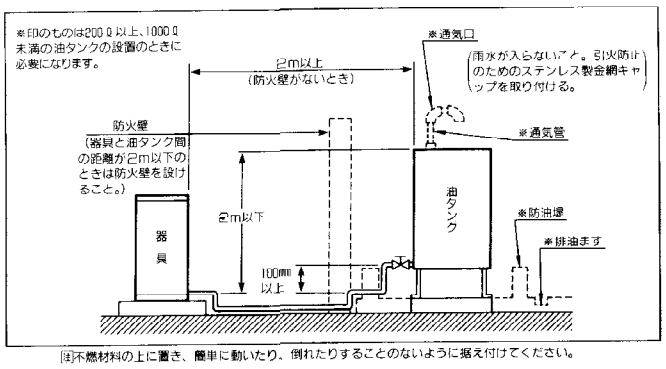
①基礎は、水平で、充分な強度のあるコンクリート造もしくは鋼板であることを確認してください。
②固定金具を固定ボルトにより、図のように固定します。
③アンカーボルトを打ち込みます。
（埋込み長さ＝40mm以上）



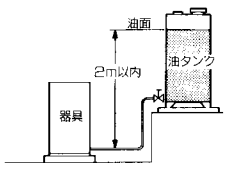


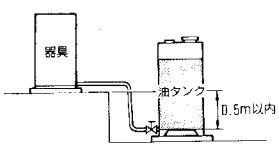
❷油タンク据付け

200ℓ以上、1000ℓ未満の油タンクを設置する場合、設置届が必要な地方があります。
各地の火災予防条例にしたがってすみやかに市・町・村の消防署へ届出をしてください。



注)不燃材料の上に置き、簡単に動いたり、倒れたりすることのないように据え付けてください。

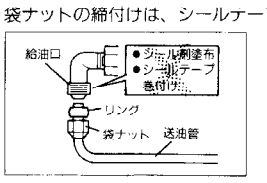


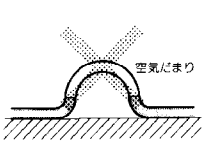


❸送油配管

■ご注意

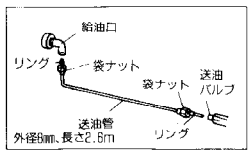
- 火災予防のため、絶対に漏油のないように、配管に十分に配慮してください。
- 配管は、上に重量物が乗ったり、折り曲ったり、空気溜りのできる逆U字にならないように取り付けてください。
- 袋ナットの締付けは、両スパナを用いて行い、給油口がゆるまないようにしてください。
- 袋ナットの締付けは、シールテープ・シール剤などは使わないで漏れのないよう強固に締め付けてください。



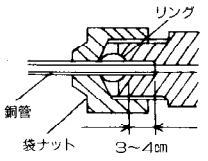


銅管が余った場合は空気だまりが出来ないように適切な長さにし、まとめてください。

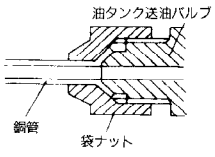
■配管



●銅管の端末を給油口に、銅管他端を油タンクに接続してください。
給油口および送油バルブに銅管をリングより3~4mm出るように挿入しながら袋ナットで銅管が動かないよう締め付ける。



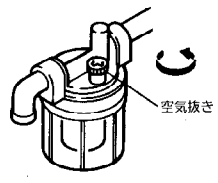
●油タンク送油バルブがフレア用になっている場合。
㋑袋ナットを銅管に挿入する。
㋺フレア工具を用いて銅管端部をフレア加工する。
㋩送油バルブに袋ナットで締め付ける。



注1　油タンク送油バルブがフレア用になっている場合は銅管端部のフレア加工を取り替える必要があります。お買い求めの販売店にご相談ください。
注2　**ゴム製送油管は絶対に使用しないでください。**
金属管を使用してください。
注3　別売の残油センサーFB-60Sを使用される場合は、残油センサーに同梱の説明書に従い工事を行ってください。

〈空気抜きの方法〉

①油タンクの送油バルブを開きます。
②前扉を開け、オイルストレーナの空気抜きねじをゆるめて、送油管内の空気を抜きます。
※オイルストレーナのカップ内が灯油で満たされると、空気抜き完了です。



4.水道配管

配管工事は水道局の指定工事店に依頼し所轄の水道局の規定がある場合はそれをご使用ください。

■配管工事

- ●器具給水口から1m以内および給湯配管は銅管など錆水の心配のない金属配管で温度・圧力に十分耐える材料（水道用塩ビ管は不可）を使用し、各地区の水道局の指定がある場合はそれをご使用ください。鉛管や鉄管はさびの原因となりますので、給水、給湯共使用しないでください。
- ●銅管は必ずロウ付けして接続してください。
- ●各配管には保温材や凍結防止帯を巻くなど地域に適した凍結予防処置を行ってください。
- ●温泉水等の水道水以外は通水しないでください。腐食等により器具の寿命低下の原因になります。
- ●器具に接続する前に必ず水を流して配管内の切粉・砂・ゴミなどを排出してください。
- ●給水接続口付近に保守・点検時のための給水元栓を取り付けてください。
- ●メンテナンス時の簡便化のため、給湯・給水配管の給湯機近くにユニオンを設けてください。

■配管の凍結防止

沖縄を除く日本全国の各地で凍結が発生する気温が記録されています。したがって、寒冷地はもちろんのこと、寒冷地以外の地方でも凍結することがあります。油断せず、凍結予防を考慮した工事を行ってください。

■配管工事における注意

- ●給水・給湯配管、排水管は保温材で十分保温してください。(地中に埋設されている配管部分には、不凍深度に至るまで保温材を巻いてください。)
- ●寒冷地においては保温材だけでは不十分なので、水道配管用凍結防止ヒーターを使用してください。
- ●器具の排水配管は必ず施工し、給湯配管は水抜きが容易にできるように適当に先上り勾配をつけてください。給湯配管が水抜きできない場合には、水抜きバルブを設けてください。
- ●凍結を防ぐため、器具および配管内の水が排水できる位置に排水バルブを取付けてください。
- ●器具を最適にご使用いただくためには給湯される個所に混合水栓が必要です。この混合水栓は抵抗の少ない瞬間湯沸器用をご使用ください。
- ●過圧防止弁は熱交換器内の圧力が上昇した時作動し、熱交換器の水（湯）を吐水します。設置場所により吐水すると不都合を生じる場合は、吐水しても支障のないように過圧防止弁吐水口に付属の吐水ホース（内径φ10mm）などを差し込みホースバンドで固定し、排水溝まで接続などの処置をしてください。

1水道直結による方法

- ●給水圧力について

㋑器具の性能を維持するためには、器具の最低作動水圧（0.25kgf/㎠）＋配管の損失水頭（特にシャワーヘッドの損失水圧＋位置水頭（給湯蛇口の一番高い位置）＋α（余裕）を加算した給水圧力が必要です。給水圧力が十分あることを確認してください。
余裕αは幅広い湯温を得るためには0.3kgf/㎠以上加算してください。

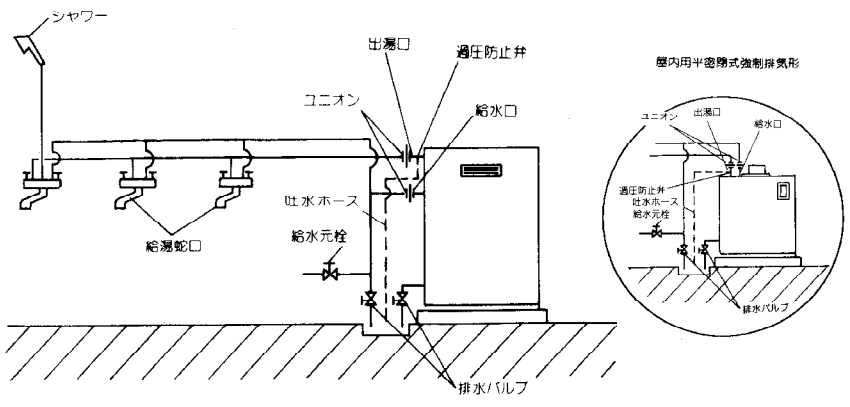
㋺器具の性能・安全を維持するために過圧防止弁（吐出圧力15kgf/㎠）が内蔵されています。熱交換器内の圧力が上昇した時作動し、熱交換器内の水（湯）を吐水し、圧力上昇を防ぎ正常値内に保ちます。吐水すると不都合を生じる場所での設置時は、過圧防止弁吐水口に付属の吐水ホース（内径φ10mm）などを差し込みホースバンドで固定し、排水溝まで接続してください。

㋩最高使用圧力は7kgf/㎠ですが、器具の最適な使用性能を確保するため給水圧力が5kgf/㎠を超える場合は、別売の水道用減圧弁（設定圧力2.5kgf/㎠）を取付けられることをお奨めします。給水圧力が高いと過圧防止弁の吐水・混合水栓での温度設定困難など支障を生じることがあります。

- ●台所用、ふろ用の水栓の中には、非常に圧力損失の大きい泡沫水栓がありますが、これは1kgf/㎠以下の給水現場には使用しないでください。
- ●シャワーヘッドは、圧力損失の少ない瞬間湯沸器用を使用してください。
  シャワーはサーモ付ミキシングバルブをご使用されることをお奨めします。
- ●サーモ付ミキシングバルブは、給水側・給湯側とも同じ圧力で使用できる形式を使用してください。
- ●水道用減圧弁を使用する場合は、㈱日本水道協会の検査済品を使用してください。寒冷地で水道用減圧弁を使用する場合は、その地域の水道局指導の寒冷地用ランク承認済品を使用してください。

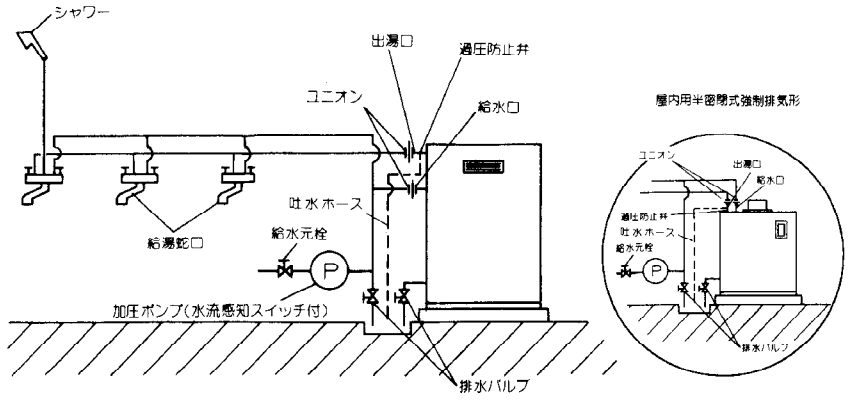
別　売　品	設　定　圧　力
水道用減圧弁（FH-13Y）	2.5kgf/㎠

- ●給水圧力が㋑より低い場合は加圧装置が必要です。



2高梁水槽・自家井水と接続される方法

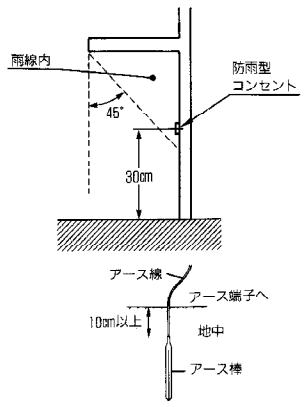
給水圧力が不足したり、給水圧力の変動が大きい場合、器具の性能が維持できません。必ず給水圧力を確認し、加圧ポンプなどの加圧装置を取付けて圧力変動を無くしてください。



5.電気配線

電気配線を電力会社の指定工事店に依頼し、所定の配線をしてください。なお、工事は電気設備基準に準じて行ってください。

- ●電源コードの有効長さは2mです。器具から2m以内に専用のコンセントを設けてください。
- ●器具の電源は交流100V（50/60Hz）です。各地区の周波数に適合した器具を使用ください。
- ●コンセントは防雨型コンセントを使用し、地上30cm以上の位置に取り付けてください。
- ●電源にタンブラスイッチは使用しないでください。ヒータが作動せず、凍結破損の原因となります。
- ●電源コードとリモコンコードを沿わせて配線したり、同一ケーブル内での配線は行わないでください。



■接地(アース)工事

- ●**第三種接地工事**（接地抵抗100Ω 以下）**を必ず行ってください。**
- ●アース線の端子部を器具本体下部のアース端子に接続してください。
- ●アース棒は日当りの悪い湿気の多い場所に打ち込んでください。
  アース棒は地中深さ10cm以上の穴を掘り、穴の底に打ち込んでください。
- ●水道管やガス管への接続、および他器具のアースとの共用は絶対にしないでください。

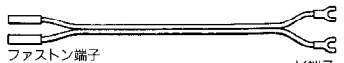
注 **器具は雷に対しての安全機構をそなえていますが、アース工事を怠りますと十分な効果が得られません。したがってアース工事は必ず行ってください。**

●テレビ・ラジオなどへのノイズ(雑音)に関する注意

器具点火時にテレビ・ラジオなどへノイズ（雑音）が入ることがありますが、点火放電によるもので、異常ではありません。テレビ・ラジオなどは器具と3m以上離し、コンセントは別回路となるようにしてください。ノイズ（雑音）を減少させることができます。また、ノイズ（雑音）はその地域の電波の強さ、給湯機とテレビ・ラジオの発信基地の方向性も関係します。受信電波の弱い地域（山間地など）では、テレビ・ラジオ等のアンテナの位置から外れた位置に給湯機の設置をおすすめします。

■給湯リモコンの取付け

●リモコンコード（別売）2芯無極性です。
市販の2芯コードを使う場合には、本体・リモコン側共、市販のY端子を取り付けてください。



RC-12A-5	5m
〃 8	8m
〃 10	10m
〃 12	12m
〃 15	15m
〃 20	20m

●リモコンコードの配線は、必ず電源コードをぬいてから行ってください。

■次の場所は取り付けないでください。

①水しぶきや蒸気、水滴などのかかる場所。
②給湯リモコンは防水構造ではありませんので、浴室内などの湿気のある場所。
③ガステーブル、こんろなどの燃焼器具の上。
④直射日光のあたる場所や、温度の高くなる場所。

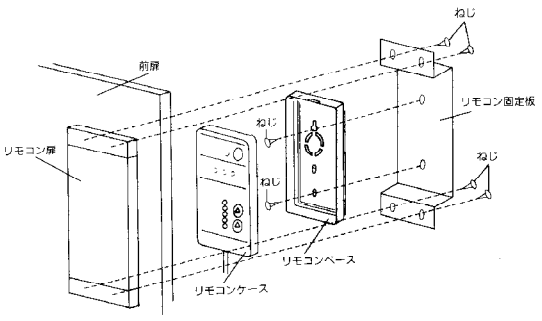
■FF・Fタイプのみ

●リモコンを機具器具本体から取りはずして使用する場合(別売リモコンコードが必要です)

●リモコンの取りはずしかた

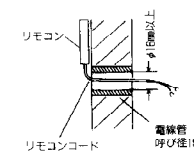
①前扉にリモコン固定板を固定しているビス（4本）を外してください。
②リモコンケースとリモコンベースを外し、リモコン固定板にリモコンベースを固定しているビス（2本）を外してください。
③前扉にリモコン扉とリモコン固定板をビス止めしてください。

注 ビス止めしないと、リモコン扉が外れてしまい、水やほこりなどが侵入し器具が故障する恐れがありますので、必ず元にもどしてください。

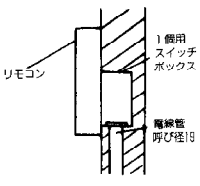


●取付け

●壁への固定の場合
リモコンコードが露出配線で一部壁を貫通する場合は、貫通部に呼び径19の電線管を埋めてください。



●スイッチボックスへの固定の場合
リモコン取付予定位置にスイッチボックスを設け、呼び径19の電線管をスイッチボックスまで配管してください。



●器具本体とリモコンコードの接続

①前扉の取付ねじ（2本）をはずします。
②リモコンコードをコード取出口から器具内に引き込んでください。
③コントローラーのリモコン端子にY端子に接続してください。

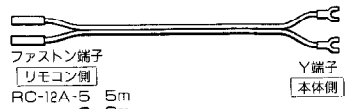
■バスリモコンの取付け

●部品

■バスリモコンB100

部品名	数	形　状	部品名	数	形　状	部品名	数	形　状
バスリモコン	1		リモコンパイプ（内、外パイプ組）	1		六角ナット	1	
バスリモコン取付板（パッキン付）	1		ビス袋	1		配線ケースセット（パッキン付）	1	

●リモコンコード（別売）2芯無極性です。



RC-12A-5	5m
〃 8	8m
〃 10	10m
〃 12	12m
〃 15	15m
〃 20	20m

●リモコンコードの配線は、必ず電源コードをぬいてから行ってください。
●給湯・バスリモコン共同じ種類のリモコンコードの使用です。

■次の場所は取り付けないでください。

①浴室専用ですので、浴室外には取り付けないでください。
②特殊薬品を使用する場所への取り付けは避けてください。
③野外や直射日光の当たる場所への取り付けは避けてください。

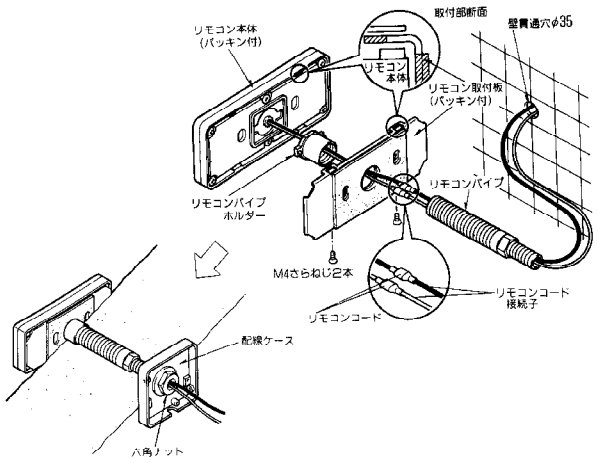
●壁貫通取付け

壁貫通取付けをするときは、同梱のリモコンパイプセットを使用してください。

①リモコン本体、リモコンパイプホルダー、リモコン取付板、リモコンパイプをセットし、配線ケースをリモコンパイプに通した後、六角ナットを締め、リモコンを壁に固定してください。

②リモコン取り付け後、リモコン全周をコーキング剤でコーキングしてください。

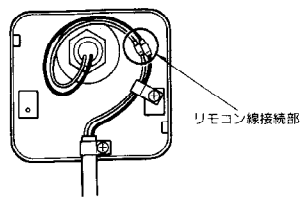
※このリモコンパイプは壁厚が200㎜まで設置できます。それ以上の場合は別売の延長リモコンパイプYF-280-EXをご使用ください。



■ご注意

●コネクターに雨・水がかからないように、図のように確実に、配線ケースに収納してください。コネクターが露出していると、作動不良等の原因になります。

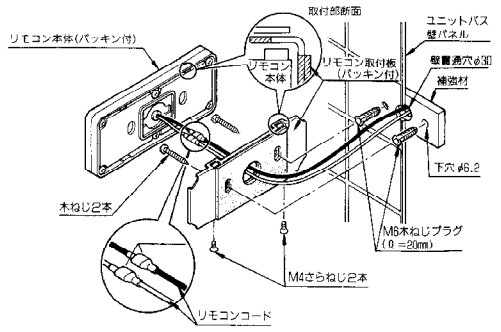
●パッキンが、よじれないように配線ケースフタを取り付け、ねじで固定してください。



●ユニットバス壁パネルへの取付け

①ユニットバス壁パネルの裏面に補強材（約80×180㎜）を取り付け、リモコン取り付け後、ねじにて固定してください。

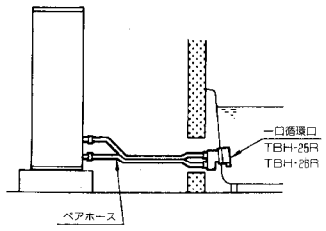
②リモコン取り付け後、リモコン全周をコーキング剤でコーキングしてください。



6.ふろ配管

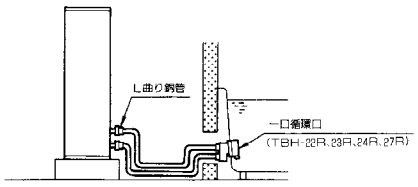
■ペアホースで接続した例

浴槽との設置レベルが同じくらいの高さで設置できる場合、また浴槽との距離が30㎝～3mまでの場合は一口循環口とペアーホースを組み合わせて使用すると、簡単で綺麗に施工ができます。
なお既設の風呂釜と取り替えを行う場合には、循環管接続用の上部の穴はアナトマール（PBF－30）などでフタをし、下の穴に一口循環口を新たに取り付けて施工します。



■銅管(12.7㎜)を使用して接続した例

浴槽と器具本体との距離が10m10曲がりまで施工ができます。浴槽との接続配管は銅管（12.7㎜）を使用するのが標準と考えます。浴槽の接続は一口循環口（TBH-22R、23R、24R、27R）より選んでください。
L曲り銅管が付属されています。

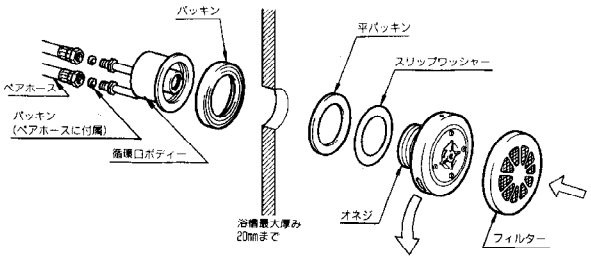


■一口循環口接続方法

●浴槽の平面部でなるべく下の方に、直径48㎜の穴をあけてください。
＊厚み20㎜以下の浴槽に使用できます。

●図のように浴槽の内側及び外側より、部品を確実に取り付けてください。
循環口ボディーとオネジで浴槽側壁をはさみ込んで固定します。

※パッキン及びスリップワッシャーを必ず取り付けてください。



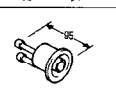
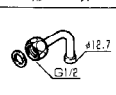
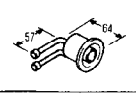
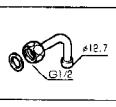
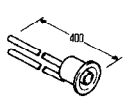
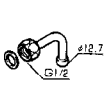
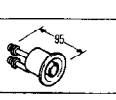
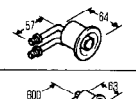
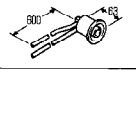
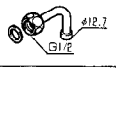
●循環口ボディーの配管接続口に配管をしっかりと接続してください。この時、配管接続口の「往き」（器具から浴槽へ）、「戻り」（浴槽から器具へ）を間違えないでください。

●浴槽および器具に給水をして、水漏れのないことを確認してください。

●沸き上げ保温を行った際、図の矢印の方向に水が出ていることを確認してください。
逆の場合、フィルターが正常に働きませんので一口循環口に同梱の説明書に従う、もしくはペアホース接続を逆にして、配管の接続を切替えてください。

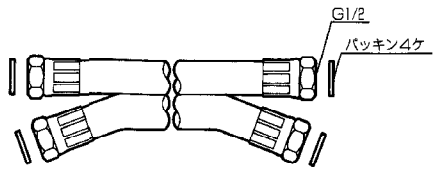
※風呂配管は保温材で十分保温してください。寒冷地においては保温材だけでは不十分なので、凍結防止ヒーターを使用してください。

一口循環口の形状と寸法および付属部品

品番	品名	形状	付属パーツ	形状	数量
TBH-22R	ロー付け式（φ12.7銅管用）		L曲り銅管（パッキン付）		2
TBH-23R	ロー付け式（φ12.7銅管用）		L曲り銅管（パッキン付）		2
TBH-24R	ロー付け式（φ12.7銅管用）		L曲り銅管（パッキン付）ソケット（銅管をカットした時のつなぎ用）		2 2
TBH 25R	ペアホース式フレキ管式（R1/2オねじ）		–	–	–
TBH-26R	ペアホース式フレキ管式（R1/2オねじ）		–	–	–
TBH-27R	ロー付け式（φ12.7銅管用）		L曲り銅管（パッキン付）ソケット（銅管をカットした時のつなぎ用）		2 2

■ペアーホース

●TBH-403K　ℓ＝30cm
●TBH-405K　ℓ＝50cm
●TBH-410K　ℓ＝100cm
●TBH-420K　ℓ＝200cm
●TBH-430K　ℓ＝300cm



■循環ポンプへの呼び水

●初めてふろ運転する時、掃除および凍結防止のため循環ポンプ排水口から水抜き後のふろ運転する時は循環ポンプに必ず呼び水（補給水）してください。

注 呼び水（補給水）しないでふろ運転すると、ふろが沸かないばかりでなく、循環ポンプの故障原因になります。

●呼び水（補給水）方法

①附属の補給水ホースを給水口の水抜きバルブに差し込み附属のホースバンドで固定します。

②補給水ホースの他方をポンプ排水口の補給水バルブに差し込み附属のホースバンドで固定します。

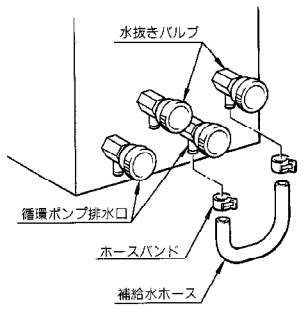
③ポンプ排水口の補給水バルブを反時計方向へ回しゆるめます。

④給水口の水抜きバルブを反時計方向へ回し水が流れ出してから約2分間そのまま通水保持します。

⑤通水終了後給水口の水抜きバルブを時計方向へ回し水が流れなくなるまで締め込みます。ポンプ排水口の補給水バルブも給水口と同様に締め込みます。

⑥給水口の水抜きバルブ先端から水が出なくなった後、補給水ホースを取り外します。

注 一度循環ポンプへの呼び水（補給水）をすれば、以後循環ポンプ排水口から水抜きをしたとき以外は必要ありません。



7.試運転

正しく据え付けられていることを確認した後、ねじをはずして前扉をはずして、次の要領で必ず試運転を行ってください。

1運転準備

①油タンクに灯油を、油量計が「満」になるまで給油してください。

②給油バルブを全開にしてください。

③オイルストレーナーの空気抜きねじをゆるめて送油経路内の空気を抜いてください。

④送油経路から油漏れがないか確認してください。

⑤給水

（イ）給水元栓を開き、器具へ給水してください。このとき器具および配管内にたまっている空気を抜くため、全ての給湯蛇口を少しあけておいてください。

（ロ）全ての給湯蛇口から水が出てきたら、給湯蛇口を閉めてください。

（ハ）全ての配管接続部から水漏れがないか確認してください。

⑥ストレーナーの掃除

（イ）設置当初は、配管工事中に混入したごみ・砂などがたまります。いったん器具内・それぞれの給湯蛇口に通水してください。

（ロ）取扱説明書の「日常の点検・手入れ・給水ストレーナーの掃除」に従い、ストレーナーを掃除してください。

⑦電源プラグをコンセントに差し込んでください。

⑧安全装置が作動し、リモコンのランプが点滅している時は、運転スイッチをいったん押して「切」にした後、再度運転スイッチを押して「入」にして解除復帰させてください。
（この操作は何度もくり返し行わないでください。器具は電源プラグにコンセントに差し込むと運転スイッチを押さなくても停電安全装置の作動により、送風機が1分間送風します。）

⑨温度調節ツマミを希望温度に合わせてください。

2運転

①運転スイッチを押して「入」にしてください。

②給湯蛇口をあけて、点火・燃焼しお湯が出ることを確認してください。

3初期運転時の異常現象

①電磁ポンプがビーッとうなり、器具が止まってしまうのは、送油経路内に空気が混入しているためで、空気抜きが必要です。

4正常運転の目安

①異常燃焼音（振動燃焼）や異常過熱、排気筒・排気トップ・排気口・給排気筒から発煙がなく運転することを確認してください。

8.お客様への説明

●工事完了後は、付属の「取扱説明書」及び「保証書」を必ずお客様にお渡しの上、「使用方法・日常の手入れ」について詳しくご説明ください。

●特に、凍結防止については取扱説明書に従って、十分ご説明ください。

●試運転終了後、お客様が長期間使用されないとき、又は引渡しまでに凍結のおそれのあるときは、給水元バルブを締め、器具内の水抜きをし、必ず水が抜けたことを確認してから電源プラグを抜いてください。また、安全のため油タンクの送油バルブを確実にしめてください。

アフターサービス(点検・修理)を依頼される場合

●アフターサービスを依頼される前に取扱説明書の（故障・異常の見分け方と処置方法）を見て、もう一度ご確認ください。

●確認のうえ、それでも不具合がある場合や不明な場合は、ご自分で修理なさらないで、INAXメンテナンス0120-1794-11（フリーダイヤル）、お求めの販売店、工事店、又は当社支社にご連絡ください。

●アフターサービスをお申しつけのときは、次のことをお知らせください。

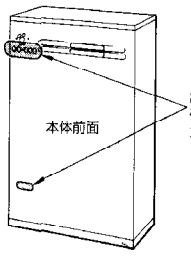
①製品品番（銘板に記載）

②現象（故障・異常の場合は、ランプの点滅及び周期をお知らせください。）

③取付年月日

④お名前・住所・電話番号

⑤お宅までの道順



保証について

●本製品はお取付日から1ヵ年保証です。（BL認定品は2ヵ年保証）

●保証書は、販売店又は工事店からお渡ししますので、必ず「販売店名か工事店名・取付日」などの記入をお確かめになり、保証書の内容をよくお読みのうえ保管してください。

●修理を依頼されるときINAXメンテナンス0120-1794-11（フリーダイヤル）、お求めの販売店・工事店・又は当社支社に保証書を添えて修理を依頼してください。保証書の記載内容により修理いたします。保証期間を過ぎても、修理により製品の機能が維持できる場合には、ご要望により有料で修理いたします。